

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



開館当初から実施している「社会科研究作品展」ですが、今年も現職研修委員会社会科部の先生方とともに開催することができました。多くの先生方の御協力に感謝、感謝です。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩く－「お櫃割神事」(西尾市室町)観察記録－

平成28年10月15日(土)と16日(日)に、西尾市室町の室町神明社で行われた「お櫃割」神事について報告します。お櫃割神事の由来は、はっきりしませんが、伝承によれば時の領主板倉内膳重昌・重矩父子が寛永14年(1637)11月、島原の乱平定に出陣の際、ムラ人こぞって神前に戦勝を祈願するに当たり、オコワ(赤飯)をお櫃に入れ、神前にお供えをして、式が終わったのち、暴徒撃滅の意気込みをもって、拳でお櫃を割ったのが初めと伝えられています。その後、秋の大祭に五穀豊穡の感謝と祈願の意味を込めて行われています。

現在、お櫃割に参加をする人は、42歳と25歳の厄年の若者です。今年は、9名の若者が三つ葉葵の紋の付いた法被を着てお櫃割を行いました。

お櫃は特別作りで、頑丈に出来ています。中にオコワを入れ、鏡蓋が打ち込んであります。それを、甘酒を入れた手桶とともに神前に供えます。参加者は神前でお祓いを受け、式が終わり次第、拝殿前に集まります。

年行司の人が、お櫃と手桶を神前より下げてお櫃を拝殿の縁に置くと同時に、若者がお櫃を取ろうとすると、年行司が手桶に入った甘酒をかける行為を繰り返します。若者達は、甘酒がかからないように素早く行動し、お櫃を取り、9人で囲み、若者の代表がまず、拳でお櫃の蓋の部分に当てる行為をします。そして、時計回りで順に拳を当てていきます。



拝殿前で、お櫃を奪う若者



お櫃を拳で割る若者



オコワを奪い合う参観者

割れた瞬間に、中のオコワを参観者に配る所作をします。このオコワを食べれば病にかからないと言われています。

とてもたくさんの参観者があり、境内はオコワを求めて、人の熱気で溢れかえっていました。厄年の若者たちのすがすがしい表情とオコワを頂く老若男女の表情の穏やかさが印象的でした。【N】



空になったお櫃

むかし館の活動より

むかし館の市制100周年記念事業

むかし館では11月3日(木・祝)に、新たな常設の展示造作物「おかざき玉手箱」を設置公開します。たくさんの扉がついているこの箱。木製丸取っ手のついた正方形の扉にはクイズを表示し、市制100周年記念事業で集めた写真から、岡崎の少しむかしを紹介します。他の扉は開けてみてのお楽しみです。11月は岡崎ジャズストリート(11/5, 6)や、りぶらまつり(11/12, 13)などの催事があります。あわせて、ちょっぴりリニューアルするむかし館へ、ぜひお立ち寄りください。



新たに設置した出入口の看板

《おかざき玉手箱》

サイズ: 高1350mm × 幅1850mm

十字に組み合わされた箱の8つの面に、クイズの扉(11)と、その他の扉[引出](6)がついており、自由に開け閉めしながら楽しんで展示を見ることができます。

各地で行われる祭礼行事を訪れると、そのエネルギーに圧倒されることが多々あります。「お櫃割」も実にエネルギー満ちたですね。神への供物を多くの人で分かち合い、身体に神の力を取り入れることで、無病息災を願います。岡崎市内にも様々な祭礼行事が伝承されています。むかし館や中央図書館の地域資料コーナーで探してみてください。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成28年11月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.0564-23-3167 / fax.0564-23-3165

開催中 【企画展示「昭和のひとコマ」 ～ 12/13】

次回展示 【「道具に見る くらしの変化」 12/15 ～ 3/21】